

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「高志・卓行」の校訓の下、普通科・英語科・理数科それぞれの特色を活かしつつ、お互いが切磋琢磨することにより、高い学力と豊かな人間性を身につけ、次代を見据えた新たな価値観を見出せる学校

教育目標：「よりよい社会の創造に積極果敢に挑戦する人材」の育成

- 1 知的好奇心を持ち、自ら課題を発見し、その解決に向けて努力できる人材
- 2 高い自尊感情を持ち、自らの考えを積極的に発信できる人材
- 3 他者を尊重し、協働して物事をなそうとする人材

2 中期的目標

1 知識の理解の質の向上と高い学力の育成

(1) 「わかる授業」から「生徒が主体的に考える授業」をめざした授業改善への取組

ア 公開授業や研究授業を積極的に行うとともに、授業見学カード、授業アンケート等を活用して授業改善に組織的に取り組む。

※ 令和7年度学校教育自己診断（生徒）において、「適切なレベルと進度で授業を行い、教材や教え方について工夫がなされている」の指数を85%以上にする。(R4 82%)

イ 特色ある教育活動を推進する。特に理数科においては科学的思考力の育成、英語科においてはグローバルな視点を身につけさせるよう取り組む。

※ 令和7年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「普通科、英語科、理数科の3学科併置の特色を生かした教育活動の充実が図られている」の指数を85%以上にする。生徒(R2 74% R3 83% R4 83%) 保護者(R2 75% R3 75% R4 92%)

※ 令和7年度学校教育自己診断（生徒）において、「教育活動を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身についた」の指数を80%以上にする。(R4 73%)

※ 令和7年度学校教育自己診断（理数科生徒）において、「教育活動を通して、科学的な視点が身についた」の指数を85%以上にする。(R4 88%)

※ 令和7年度学校教育自己診断（英語科生徒）において、「教育活動を通して、グローバルな視点が身についた」の指数を85%以上にする。(R4 86%)

(2) 「探究活動」の一層の推進による主体的・対話的で深い学びの充実・深化

ア 「探究活動」「課題研究」において、主体的に学ぶ態度、論理的な思考力・判断力・表現力を育成する。

※ 令和7年度学校教育自己診断（生徒）において、「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力等が身についた」の指数を80%以上にする。(R4 79%)

イ 「探究活動」に関する教員のスキルアップに向けた教員研修の実施

※ 令和7年度学校教育自己診断（教職員）において、「日々の教育活動や研修を通じて『探究活動』に関する理解を深めている」の指数を95%以上にする。(R4 92%)

(3) 自学自習の習慣を身につけさせるための学力のプロセスと現状を確認できるツールの活用

ア 学習支援クラウドサービスを活用して、生徒自身が進捗状況を確認する。

イ 全国模試を活用することにより、学力定着度等について確認する。

※ 令和7年度学校教育自己診断（生徒）において、「自学自習や家庭学習の習慣が身についた」の指数を70%以上にする。(R4 57%)

(4) ICT活用の推進

ア 生徒の学習意欲向上および学習保障に向け、ICTを積極的かつ効果的に活用し、どんな状況においても学びを止めない体制を構築する。

※ 令和7年度学校教育自己診断（教職員）において、「ICT機器を活用して指導を行っている」の指数を98%以上にする。(R2 未調査 R3 90% R4 98%)

(5) 第4次大阪府子ども読書活動推進計画に基づく読書活動の推進

ア 図書館の利用促進および読書習慣の確立

※ 令和7年度において、生徒の図書館貸出冊数を2,000冊以上とする。(R3 724冊 R4 852冊)

2 安全安心で魅力ある学校づくり

(1) 生徒指導

ア 「遅刻ゼロ」「自分から挨拶」運動の推進による基本的な生活習慣の習得および規範意識の向上

※ 令和7年度学校教育自己診断（生徒）において、「基本的な生活習慣やマナーが身についた」の指数を85%以上にする。(R4 84%)

※ 令和7年度において、遅刻件数を1000件未満にする(R2 1136件 R3 1067件 R4 2月末現在1790件)

※ 令和7年度において、年間皆勤の生徒を全校生徒の35%以上にする。(R2 46% R3 37% R4 36.1%)

イ 校医やスクールカウンセラーと連携し、生徒一人ひとりの心身の健康・体力を保持増進する力を育成する。

※ 令和7年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「生徒の健康保持のための指導やけが・病気等に対する対応が適切に行われている」の指数を90%以上にする。生徒(R2 81% R3 87% R4 94%) 保護者(R2 76% R3 75% R4 89%)

ウ 全教職員・生徒で、ごみの減量および分別化を推進する。

エ 校内清掃活動の日常的实施および地域と連携したボランティア活動を推進し、生徒の相互扶助精神を養う。

※ 令和7年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「生徒が積極的に清掃活動・環境美化に取り組むように指導が行われている」の指数を80%以上にする。生徒(R2 75% R3 78% R4 76%) 保護者(R2 56% R3 57% R4 80%)

オ 「開かれた学校づくり」をめざし、HPを活用し、本校の教育活動、生徒の様子等について積極的に外部に発信する。

※ 学校教育自己診断（保護者）において、「ホームページ等を通じて、教育活動等について積極的に外部に発信している」の指数を90%以上にする。(R4 88%)

(2) 特別活動（学校行事、部活動）の充実によるリーダーシップ・パートナーシップ・フォロワーシップの育成

ア E-Fes（体育大会・文化祭）等の学校行事等、生徒会活動を充実させることで、生徒の自主性、協調性、創造力を養う。

※ 令和7年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「学校行事や部活動等を通じて、生徒が自発的に活動できるよう、自主性を重んじた指導が行われている」の指数を90%以上にする。生徒(R2 83% R3 85% R4 88%) 保護者(R2 77% R3 79% R4 91%)

イ 大阪府「部活動の在り方に関するガイドライン」に沿った部活動を推進し、さらなる活性化により自立心・協調性を養う。

※ 令和7年度において、部活動加入率を90%以上にする。(R2 84.1% R3 82% R4 79%)

※ 令和7年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「学習と部活動の両立を大切にしている」の指数を85%以上にする。(R4 生徒80% 保護者88%)

(3) 教育活動全体を通じた人権教育による人権感覚の醸成

ア 人権教育推進委員会を中心とし、教育活動全体を通じて、道徳心および多様性を受容する人権感覚を養う。

- イ 芸術鑑賞、人権講演会を通じて、豊かな感性や情操、自他尊重の精神を養う。
- ※ 令和7年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「豊かな心や生き方、人権の大切さについて学ぶ機会を設け、違いを認めながら支え合う集団を育てている」の指数を85%以上にする。生徒（R2 72% R3 83% R4 92%） 保護者（R2 67% R3 72% R4 86%）
- ※ 令和7年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「明るく、充実した学校生活を送っている」の指数を90%以上にする。生徒（R2 89% R3 92% R4 91%） 保護者（R2 88% R3 89% R4 92%）
- ウ いじめ対策委員会を中心とし、いじめの未然防止および事案発生時は組織的かつ迅速、適切に対応する。
- ※ 令和7年度学校教育自己診断（教職員）において、「いじめや体罰（その疑いを含む）の問題について、組織的かつ迅速に対応している」の指数を95%以上にする。（R4 96%）

(4) 生徒支援の充実

- ア 支援教育推進委員会を中心に生徒情報の共有化に努めるとともに、配慮を要する生徒の実態を的確に把握し、合理的配慮の観点から踏まえた支援を行う。
- ※ 配慮を要する生徒・保護者からの聞き取りによる満足度を85%以上にする。（R4 88%）
- イ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の外部人材の活用により、教育相談体制を充実させる。
- ※ 令和7年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「生徒の悩みや困ったことに対して、親身な対応がなされている」の指数を85%以上にする。生徒（R2 67% R3 76% R4 86%） 保護者（R2 59% R3 58% R4 85%）

3 進路指導・キャリア教育の充実

(1) 生徒一人ひとりの進路意識の向上に向けた進路講話、情報提供等の充実

- ア HR、進路講話等を通じて、生徒の進路意識を向上させる。
- イ 進路決定・実現に向けた生徒の主体的な取組を促進する。
- ウ 進路や高大連携に関する情報提供を適切かつ速やかに行い、生徒の進路選択を支援する。
- ※ 令和7年度学校教育自己診断（生徒）において、「HRや進路講話、進路講演会等を通じて、進路に対する意識が高まった」の指数を80%以上にする。（R4 80%）
- ※ 令和7年度学校教育自己診断（生徒）において、「生徒一人ひとりの能力・適性を活かすことのできるように、きめ細かい進路指導がなされている」の指数を80%以上にする。生徒（R2 63% R3 70% R4 78%）

(2) 保護者等の進路に関する共通理解、進路意識の向上

- ア 保護者への情報提供を適切に行い、家庭との連携を密にして生徒の進路実現を支援する。
- ※ 令和7年度学校教育自己診断（保護者）において、「生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数を75%以上にする。保護者（R2 51% R3 50% R4 74%）

(3) 進路実現に向けた教職員の共通理解と指導の充実

- ア 大学入試等に関する最新情報を全教職員が正しく理解するとともに、大学入試改革に的確に対応できるよう指導を充実させる。
- イ 進学指導力向上に向け、模試分析会、志望校検討会を充実させる。
- ※ 令和7年度学校教育自己診断（教職員）において、「進路についての適切な情報を生徒に知らせるとともに、生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数を95%にする。（R2 84% R3 80% R4 96%）

(4) 生徒の希望する進路の実現

- ア 生徒の希望や適性等に応じた適切なガイダンスおよび個別面談を行い、進路結果についての生徒の満足度を高める。
- ※ 令和7年度卒業生のうち、進路結果についての生徒の満足度を90%以上にする。（R4 89%）
- ※ 令和7年度卒業生のうち、現役で国公立大学合格者を60名以上にする。（R2 28名 R3 44名 R4 35名）

4 チーム東高校として課題解決にあたる教員集団の確立

(1) 学校の教育課題に対して全員で取り組む環境づくり

- ア 学習支援クラウドサービスの活用により、教員間の情報共有、業務の連携、効率化を図る。
- イ 学校の課題に適した教員チームを中心として、主体的な教員集団を確立するとともに、意見・提案しやすい環境づくりに努める。
- ※ 令和7年度学校教育自己診断において、「教職員間で、生徒情報共有、業務連携、効率化に取り組んでいる」の指数を75%以上にする。（R4 70%）
- ※ 令和7年度学校教育自己診断において、「教育活動における課題や悩みについて、教職員間で話し合うことができ、意見や提案をしやすい環境である」の指数を80%以上にする。（R4 78%）

(2) 働き方改革としての業務の平準化、効率化

- ア 時間外勤務時間の削減を図るため、教職員への啓発と意識改革を図る。
- ※ 令和7年度までに、教職員の平均時間外勤務時間を年次減少させ、令和4年度比4%以上減とする。（R4.12月現在 38時間25分）

※ 上記、各指標における「指数」とは、各アンケート等に対する「肯定的な意見の割合」をさす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月および11月の2回、各2週間の相互授業見学を実施した。授業を見学した教員から受け取った「授業見学カード」や授業アンケートの結果をもとに、各教科で授業力向上と授業改善に向けて取り組んだ。研修を通して1人1台端末の授業における活用方法の研究に教科の枠を超えて取り組んだ。また新学習指導要領から実施している観点別学習状況の評価についての研究を深め、生徒の学習状況の評価を教員の指導にフィードバックすることにより、より効果的な授業づくりの研究に取り組んでいる。 <p>○理数科</p> <p>学校教育自己診断（理数科生徒）において、「教育活動を通して、科学的な視点が身についた」の指数は84%であった。学習効果があったと考えられる具体的活動は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生は、宿泊野外実習や探究基礎実習を実施し、実物に触れる体験と研究者との対話を体験させることで、自然科学的な思考力や探究心の向上を図ることができた。また1人1台端末を活用した発表会も実施でき、プレゼンテーション能力の向上を図ることができた。 ・2年生での先端科学研修では東京大学や筑波研究施設群を訪問し、学校では得ることのできない最先端の研究や技術に触れることができた。理数探究では、生徒が主体的に実験の組み立てから結果の考察までを行うことができた。また、大阪サイエンスデイやSSH 生徒研究発表会へも参加し、他の高等学校の生徒との意見交換や議論を通じた交流を行うことができた。校内の発表会ではすべての生徒が1人1 	<p>第1回 4月24日（月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点目標として生徒が主体的に学ぶ授業をめざした取り組みを継続していく。校内における相互授業見学の実施に合わせて研究授業を行い、授業改善につなげていきたい。 ・生徒の自主的な学習への取り組みや読書量の増加に向けた取組を積極的に進めている。今年度は学校経営推進費を申請して図書館改造計画に取り組み、自習室に加え班活動での議論などで活用できるスペースにしていきたいと考えている。生徒の意識の中で図書館の位置づけが変わることで自然と本を借りる生徒が増え、生徒のキャリアアップの一環になると考えている。 ・課外の講座等へ積極的に参加する姿勢が見られる。一方、自分で考えて何か+αの取り組みを行うという点においては今後も改善の余地があると感じる。

台端末によって実験の成果を発表し、プレゼンテーション能力の向上とともに ICT 機器の積極的な利用もできた。理数科集中ゼミでは平常時では扱いきれない実験を生物、化学、数学の3分野で開講し、自然科学への一層の興味や関心を持たせることができた。

○英語科

学校教育自己診断（英語科生徒）において、「教育活動を通して、グローバルな視点が身についた」の指数が88%であった。学習効果があったと考えられる具体的な活動は次の通りである。

- ・NET との TT では異なる文化や価値観に対する理解を深めた。1年生は英語によるプレゼンテーションを多数行い、英語暗唱コンテストも実施した。2年生は英語スピーチコンテストと集中ゼミ、DD(ディベート・ディスカッション)を、3年生は主にDDを行った。
- ・NZへの研修旅行に生徒20名が参加し交流を深め、12月には台湾の学校と姉妹校提携を行った。

○探究活動

学校教育自己診断（生徒）において、「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力等が身についた」の指数は78%であった。また、学校自己診断（教職員）において、「日々の教育活動や研修を通じて『探究活動』に関する理解を深めている」の指数は95%であり、目標を大幅に上回った。各項目の分析は次の通りである。

- ・「総合的な探究の時間」において、1年生は、1学期に「なぜ学ぶのか」、2学期は「論理コミュニケーション」、3学期は「プレ探究 探究テーマを考える」に取り組み、思考力・判断力・表現力を育成した。2年生は、各学科において、生徒自らの興味・関心に応じてチームを編成し、1学期にはテーマ・仮説設定、検証に取り組んだ。2学期には中間発表会や集中ゼミでの発表を行うことで探究活動をブラッシュアップした。2月に生徒研究発表会で発表する予定である。また、探究活動の一環として、「Eラボ」では経済産業省後援のプログラムや他校・大学との取り組みとして「探究 EXPO」に参加した。外部の探究に関するコンクールにも積極的に参加した。
- ・教員について、研究活動委員会を通して、学年・学科を越えて探究・研究活動の進行状況とともに、課題解決のための方策を共有することができた。また、各学科において担当者の打ち合わせを基本的に毎週行い、指導力の向上を図ることができた。
- ・1人1台端末について、生徒は事例の集約、レポート作成、発表資料の作成等で活用することができた。また登校できない生徒に対して Web 会議システムを活用し、授業に参加できる環境づくりを進めることができた。教員の「ICT 機器を活用して指導を行っている」の指数は100%であり、目標を達成した。10月には教員研修会として「グループウェア活用研修」を実施し、1人1台端末の活用推進につなげた。
- ・全教科の教員から図書館の書籍を推薦してもらい『東高校の100冊』を作成した。探究活動で図書館オリエンテーションを行ったり、授業で文献として書籍を活用したりするなど、利用促進を図り、昨年度に比べて利用率を向上することができた。貸出冊数は、新刊図書の入荷遅れなどの懸念材料はあったが、「としょかん通信」などの広報活動、教科の宿題や授業での利用などにより、1443冊と大幅に伸びた。

【生徒指導】

- ・学校教育自己診断（生徒）において、「基本的な生活習慣やマナーが身についた」の指数は87%で昨年より向上した。年間の遅刻件数については、12月末の時点でほぼ同数であった。また、一年間皆勤の生徒は全校生徒の20%であった。
- ・学校HPにおいて、447件の新規記事を更新した(1/4 現在)。新入生の85%以上が本校HPを入学前に閲覧し、そのうち約90%の生徒が参考になったと回答していることから、広報活動の一つの柱として今後も継続していきたい。また保護者への情報発信ツールとしても一定の評価を得ることができた。

【特別活動】

学校教育自己診断（生徒・保護者）において、①「学校行事や部活動等を通じて、生徒が自発的に活動できるよう、生徒の自主性を重んじた指導が行われている」という指数は生徒90%、保護者91%であった。また、部活動加入率81.8%であり、学校教育自己診断（生徒・保護者）において、②「学習と部活動の両立を大切にしている」の指数は、生徒82%、保護者86%であった。各項目の分析は次の通りである。

- ・①について。E-fes 体育の部に関しては、走ることが得意な生徒だけでなく、誰もが参加可能なという種目や学年ごとの種目を体育祭実行委員が中心となってプロデュースした。また E-fes 文化の部での幕間の有志団体の発表の新企画や ESW(スポーツ大会)においても、誰でも参加可能な形態の間口の広い内容を生徒会執行部が企画し、運営したことが、自発的な活動の下地を創り、自主性の涵養につながっていると思われる。
- ・②について。部活動加入率に関して、85%以上という目標数値は現実的に厳しい数値設定であり、コロナ禍で学校生活を過ごしてきた生徒の中には、部活動をしたという積極的な生徒とそうでない生徒の乖離があると思われる。ただし、R4年度と比較すると加入率は約3ポイント上昇している。また、「学習と部活動の両立を大切にしている」の指数「あてはまらない」との回答は生徒が10%、保護者3%と乖離があり、専門的な指導を受けられていないという思いが生徒の回答に反映されている可能性は否定できない。また、部活動の加入時期は「いつでも可能」としているが、年度当初に入部しかなかった生徒がそのまま未所属となっており、加入率の上昇につながっていないことも考えられる。1年次の初期段階の加入が重要であるならば、志望校選択の際に閲覧するホームページでの部活動の活動報告等の記事の重要性を改めて再認識した上での広報活動が肝要である。

【人権教育】

学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「豊かな心や生き方、人権の大切さについて学ぶ機会を設け、違いを認めながら支え合う集団を育てている」の指数は生徒89%、保護者88%であった。効果があったと考えられる主な活動は次のとおりである。

- ・5月：SNS 人権教育講演会「インターネットと人とのかかわり合い」（講師：スマイリーキクチ）
- ・12月：教職員・PTA 人権教育研修会（講師：小倉歩）
- ・7月、12月のいじめアンケートの結果をふまえ、事案と思われる事象について早急に聞き取り調査を行い、いじめ対策委員会で情報共有し、速やかに対応したことから、学校教育自己診断（教職員）において「生徒の問題行動およびいじめや体罰（その疑いを含む）の問題について、組織的かつ迅速に対応している」の指数は100%であった。

- ・特別活動や部活動を通して生徒が主体となる学校行事へと改革し、生徒のリーダーシップ・パートナーシップの育成を図りたい。
- ・生成AIをはじめ、技術は使い方次第である。情報を鵜呑みにせず、その真偽を疑う嗅覚や感覚を養うためにも基礎学力は大切となる。賢く良心に従って使うことが大切である。また技術に使われないためにも、それらを使っているという意識を強く持つことが重要である。
- ・近隣住民からは真面目そうなしっかりとした生徒たちと評価されている。自転車のマナーに関しても徐行運転や停止をするなど心づかいができる生徒が増えたと感じている。
- ・保護者アンケートでも高い評価を得ている。それをホームページ等で発信していくことが大事である。生徒主体で取組を進めていくことも面白いと感じる。自分たちの学校を自分たちで発展させるという当事者意識を持たせることも重要だと考える。
- ・イメージはすぐに付与されるが、地道に価値を付与していくことも大切である。生徒自身が関わった地道なブランディングにつながる取り組みを期待している。

第2回 10月12日（木）

- ・図書室の蔵書及び生徒の希望図書入荷状況について、借りたい本そのものがなかったらなかなか行かないのではないかと。
- ・大学の入試でも文学は出るので、たくさん読んで人は有利なのではないかと。
- ・各学科で本に対するニーズの違いが出てくるが、各学科で購入図書の希望はないかと。
- ・「文化祭が楽しかった」の数値が非常に高いことについて。体育の部を見たがほんとに楽しそうに、競技にも真剣に取り組んでいた。学校が楽しいという思いで来てくれるのが学校にとっては一番うれしいことである。
- ・不登校になる生徒の特徴はあるのか。
- ・コロナ感染症拡大に対する対策が緩和されたが、オンライン授業がよくなったという人が、逆に対応できない可能性はあるのではないかと。
- ・100周年でもあるので歴史的な土地というのは他にはないことなので、東高校が、大阪大学工学部の跡地であったことを宣伝するのも良いのではないかと。

第3回 2月8日（木）

- ・進路指導の指数が他と比べて若干低くみられる。学年ごとの状況の違いや、アンケートをとったタイミングと関わってくるのだろう。進路情報は学年によっても内容が違っているので、効果を確かめながらどのような発信をしていくか試行錯誤の段階であろう。
- ・業務効率化は大変伸びている。
- ・教職員側から見た生徒・保護者が納得できる生徒指導や基本的なマナー・生活習慣が身に付くように指導の評価が下がっている。ルールメイキングという運動が現在は主流になっており、校則の運動の中ではポイントの一つにはなっている。共通ルールをどう設定していくのかが大事なポイントでもあるし、難しいポイントでもある。指導の目線を合わせるということが大変重要になってくる。
- ・納得した生徒指導をしているかどうかについて。保護者・先生目線と生徒の間では、ある種のずれとする見方もできる。どちらかに合わせるというよりはここで一つのせめぎ合いがあるという点が大変重要なポイントである。ずれがあるのが悪いことではなく、学校の中で当事者として過ごしていく中での共通、大事にしないといけないということが現在進行形で動いてきているという読み取りもできるのではないかと。
- ・1人1台端末について。先生方はICT機器を使いこなしていると言っているが、生徒はPCを家に置いたままのことが多く、残念である。また、電子辞書を入学したときに購入したのに、携帯で済ましているのか、あまり使っていない様子が気になる。ただし、生徒一人ひとりが端末を効果的に活用しているという点において、生徒は昨年より上がっているのは無視できない。先生も1人1台端末を効果的に使

- ・6月に各学年で芸術鑑賞を実施した。

【進路指導】

- ・生徒一人ひとりの進路意識の向上に向けた進路講話、情報提供等の充実については、「HRや進路講話、進路講演会等を通じて、進路に対する意識が高まった」の自己診断（生徒）の指数は78%であり、主体的に進路について考える生徒の割合が高くなってきており、講話や講演会の効果があらわれていると考えられる。
- ・保護者等の進路に関する共通理解、進路意識の向上については、「生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の自己診断（保護者）の指数は73%と昨年度並みであり、保護者対象の講演会および進学説明会の効果が維持されている。
- ・進路実現に向けた教職員の共通理解と指導の充実については、「進路についての適切な情報を生徒に知らせるとともに、生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導を行っている」の自己診断（教職員）の指数は95%と高く、学習支援クラウドサービスを活用した情報提供や学年会での情報共有が効果的だったと考えられる。
- ・自学自習の習慣を身につけさせるための学力のプロセスと現状を確認できるツールの活用については、「自学自習や家庭学習の習慣が身についた」の自己診断（生徒）の指数は54%と目標には至らなかった。家庭学習の重要性をよりいっそう講話などで伝えるとともに、キャリア・パスポートによる振り返りと目標設定をより実践的に活用できるように改善したい。

【保健指導】

- ・日常の保健室での対応、また校医からの指導・助言をもとに「健康教育だより」の配信や掲示を適宜行うなどの日々の指導により、学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「生徒の健康保持のための指導やけが・病気等に対する対応が適切に行われている」の指数は生徒92%、保護者93%であり、目標を大きく上回った。
- ・清掃活動について、保健美化委員が清掃に関するポスターを作成し掲示し、啓発活動を行った。学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「積極的に清掃活動・環境美化に取り組むような指導が行われている」の指数は生徒89%、保護者79%であり、数値目標については達成できない部分があったものの、生徒指標については昨年度の76%より大幅に改善することができた。
- ・学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「生徒の悩みや困ったことに対して、親身な対応がなされている」の指数が生徒89%、保護者84%であった。また、学校保健委員会の場を利用して、スクールカウンセラーの先生に講演いただいた。また、支援委員会等を通じ、配慮を要する生徒情報の共有化に努めた。

【学校運営】

- ・学習支援クラウドサービスの活用において、学校教育自己診断（教職員）では「生徒情報共有、業務連携、効率化に取り組んでいる」の指数は83%であった。会議や研修等の情報や生徒の欠席内容の共有、感染症拡大や災害時等の迅速な対応に効果があったと考えられる。
- ・有事における対応において、学校教育自己診断（教職員）では、「地震や火災などの災害時に、迅速で適切な対応ができる態勢が整えられている」の指数は83%であった。『防犯及び防災計画』、『危機管理マニュアル』の作成、また、6月・9月の避難訓練時には、避難経路および役割の確認を行ったが、役割に応じた業務が不明瞭であったことが要因として考えられる。現在、校外研修等での内容を参考に、次年度に向けてマニュアル、避難訓練の事前、事後指導について見直しを図っている。
- ・教職員の平均時間外勤務時間は、昨年同時期（12月末現在）で35時間42分（昨年度比7%減）となった。ICT活用による会議のペーパーレス化や保護者からの欠席連絡による、印刷・電話対応業務の削減、部活動指導員の導入による業務時間の確保、安全衛生委員会の報告等による時間外勤務時間縮減の啓発にも効果があったと考えられる。

う取り組みが、より一層進展しているという見方もできる。

- ・図書の貸し出しが、コロナ対応が緩和されたこと、意識的な働きかけ、特に探究と連動して貸し出し冊数が上回っている。
- ・学校アンケートも入学してよかったという生徒が9割を超えているのは素晴らしい数字であり、ありがたいことである。
- ・地震や火災などの災害時にどう行動したらよいかというその項目について。生徒の方はアップしているのでよく理解していると思うが、保護者の方は数字的には減っているため、保護者は少し心配な部分だと思う。
- ・小学校や中学校は地域が限られているが、高校では登下校中に何か起こったら調べるのがとても大変であると思った。
- ・学校の授業中にもしものことがあったら生徒は訓練しているので、正しい行動がとれると思うが、地域の人や会社関係の方がみんな来て、避難所になったときはどうするのかと、いつも考えている。
- ・自学自習のとらえ方は、生徒と先生と保護者で違うのか。生徒の方が自学自習の考えを厳しめにみている。宿題を自学自習じゃない、もしかしたら入試勉強も自学自習ではないと思っているのではないか。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
<p>1 知識の理解の質の向上と高い学力の育成</p>	<p>(1)「わかる授業」から「生徒が主体的に考える授業」をめざした授業改善への取組</p> <p>ア 公開授業や研究授業を積極的に行うとともに、授業見学カード、授業アンケート等を活用して授業改善に組織的に取り組む。</p> <p>イ 特色ある教育活動を推進する。特に理数科においては科学的思考力の育成、英語科においてはグローバルな視点を身につけさせるよう取り組む。</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の授業力向上をめざし、年次研修の研究授業に加え、年間2回の公開授業(相互授業見学)を実施し、「授業見学カード」等を活用し、意見交換を行う。 <p>イ</p> <p>【理数科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの事象について科学的な視点を身につけるため、1年生宿泊野外実習や探究基礎、2年生理数科先端研修における実験や体験学習等を行う。 ・科学・技術への関心を高めるとともに、自己の進路や将来像を考えるため、大学教授による講演(レクチャー)を実施する。 ・コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の向上をめざし、「課題研究」において共同研究および校内発表会を実施するとともに、外部発表会にも参加する。 <p>【英語科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異なる文化や価値観に対する理解を深めるとともに、プレゼンテーション能力の向上に向け、「英語集中ゼミ(探究活動)」を行う。また、グローバルな視点を身につけるため、講演会を実施する。 ・英語でのコミュニケーション能力を身につけるため、NET(外国語指導員)との交流をはじめ、姉妹校交流、国際交流への参加を積極的に進める。 	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(生徒)において、「適切なレベルと進度で授業を行い、教材や教え方について工夫がなされている」の指数を80%以上にする。[R4 82%] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「普通科、英語科、理数科の3学科併置の特色を生かした教育活動の充実が図られている」の指数を80%以上にする。[R4 生徒83% 保護者92%] ・学校教育自己診断(生徒)において、「教育活動を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身についた」の指数を75%以上にする。[R4 生徒73%] <p>【理数科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(理数科生徒)において、「教育活動を通して、科学的な視点が身についた」の指数を80%以上にする。[R4 理数科生徒88%] <p>【英語科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(英語科生徒)において、「教育活動を通して、グローバルな視点が身についた」の指数を80%以上にする。[R4 英語科生徒86%] 	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(生徒)において、「適切なレベルと進度で授業を行い、教材や教え方について工夫がなされている」の指数が82%であった。(◎) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「普通科、英語科、理数科の3学科併置の特色を生かした教育活動の充実が図られている」の指数は生徒84%、保護者91%であった。(○) ・学校教育自己診断(生徒)において、「教育活動を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身についた」の指数は78%であった。(◎) <p>【理数科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(理数科生徒)において、「教育活動を通して、科学的な視点が身についた」の指数は84%であった。(◎) <p>【英語科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(英語科生徒)において、「教育活動を通して、グローバルな視点が身についた」の指数が88%であった。(◎)
	<p>(2)「探究活動」の一層の推進による主体的・対話的で深い学びの充実・深化</p> <p>ア 「探究活動」「課題研究」において、主体的に学ぶ態度、論理的思考力・判断力・表現力を育成する。</p> <p>イ 「探究活動」に関する教員のスキルアップに向けた教員研修の実施</p>	<p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会に対する生徒の興味・関心、研究に対する意欲を高め、主体的に学ぶ態度、論理的思考力を身につけるため、1年生を「探究基礎」、2年生を「探究実践」と位置づけ、少人数のチームで「探究活動」を実施する。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教員が「探究活動」の趣旨目的を共有し、生徒の活動を充実させるとともに、指導助言力を向上させ、教科指導等にも活かせるよう、定期的に情報交換会、教員研修を実施する。 	<p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(生徒)において、「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力等が身についた」の指数を75%以上にする。[R4 生徒79%] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(教職員)において、「日々の教育活動や研修を通じて『探究活動』に関する理解を深めている」の指数を90%以上にする。[R4 教職員92%] 	<p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(生徒)において、「探究活動を通じて主体的に学ぶ態度、論理的思考力等が身についた」の指数は78%であった。(○) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(教職員)において、「日々の教育活動や研修を通じて『探究活動』に関する理解を深めている」の指数は95%であった。(◎)
	<p>(3)自学自習の習慣を身につけさせるための学力のプロセスと現状を確認できるツールの活用</p> <p>ア 学習支援クラウドサービスを活用して、生徒自身が進捗状況を確認する。</p> <p>イ 全国模試を活用することにより、学力定着度等について確認する。</p>	<p>(3)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援クラウドサービスのポートフォリオ機能を活用して、学習の振り返りを行う。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間3回の全国模試の結果をもとに担任と面談を通じて、学力定着度や学習への取組について確認する。 	<p>(3)</p> <p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(生徒)において、「自学自習や家庭学習の習慣が身についた」の指数を70%以上にする。[R4 生徒57%] 	<p>(3)</p> <p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(生徒)において、「自学自習や家庭学習の習慣が身についた」の指数は54%であった。(△)
	<p>(4) ICT 活用の推進</p> <p>ア 生徒の学習意欲向上および学習保障に向け、ICTを積極的かつ効果的に活用し、どんな状況においても学びを止めない体制を構築する。</p>	<p>(4)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業において1人1台端末を利用した教材活用や課題作成を積極的に進めるとともに、臨時休校等に備え、日常的にWeb会議システムを活用する。 	<p>(4)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(教職員)において、「ICT機器を活用して指導を行っている」の指数を98%以上とする。[R4 98%] 	<p>(4)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(教職員)において、「ICT機器を活用して指導を行っている」の指数は100%であった。(◎)

	<p>(5) 第4次大阪府子ども読書活動推進計画に基づく読書活動の推進 ア 図書館の利用促進および読書習慣の確立</p>	<p>(5) ア ・教科指導や探究活動などで積極的に図書館の書籍を活用する。また、生徒のニーズを把握し、オンラインを活用した図書館の書籍紹介やデジタル書籍の貸出を行う。生徒の読書意欲向上に向け、ビブリオバトルへの参加を促進する。</p>	<p>(5) ア ・生徒の図書館貸出冊数を1,000冊以上とする。[R4 852冊]</p>	<p>(5) ア ・生徒の図書貸出冊数は1443冊であった。(◎)</p>
<p>2 安全安心で魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 生徒指導 ア 「遅刻ゼロ」「自分から挨拶」運動の推進による基本的な生活習慣の習得および規範意識の向上 イ 校医やスクールカウンセラーと連携し、生徒一人ひとりの心身の健康・体力を保持増進する力を育成する。 ウ ごみの減量および分別化を推進するとともに、校内清掃活動および大掃除等により、校内美化の意識を高める。 エ 「開かれた学校づくり」をめざし、HPを活用し、本校の教育活動、生徒の様子等について積極的に外部に発信する。 (2) 特別活動(学校行事、部活動)の充実によるリーダーシップ・パートナーシップ・フォロワーシップの育成 ア E-Fes(体育大会・文化祭)等の学校行事等、生徒会活動を充実させることで、生徒の自主性、協調性、創造力を養う。 イ 大阪府「部活動の在り方に関するガイドライン」に沿った部活動を推進し、さらなる活性化により自立心・協調性を養う。 (3) 教育活動全体を通じた人権教育による人権感覚の醸成 ア 人権教育推進委員会を中心とし、教育活動全体を通じて、道徳心および多様性を受容する人権感覚を養う。 イ 芸術鑑賞、人権講演会を通じて、豊かな感性や情操、自他尊重の精神を養う。</p>	<p>(1) ア ・毎日の挨拶励行に加え、生徒会、風紀委員による挨拶運動を定期的に行う。 ・年間3回の遅刻防止週間を設けるとともに、丁寧に粘り強く個別指導を行う。 イ ・生徒全員に各種健診を受診するよう指導する。また、その結果や健康調査をもとに校医の指導・助言を得て、適切に健康指導を行う。 ウ ・毎日の清掃と大掃除(月に1回程度)を行うことで校内美化の意識を高めるとともに、美化委員による自主的な清掃活動を促進する。ゴミの持ち帰りに関する啓発ポスターの作製・掲示やデジタル化により、ゴミの減量化・分別化に取り組む。 エ ・本校の授業や学校行事、部活動の様子等について、ホームページで年間400件以上更新する。 (2) ア ・生徒会執行部のミーティングを定期的に開催し、執行部の連携を深めるとともに、学校行事等に関する生徒のニーズを把握し、生徒主体の特別活動の運営を進める。 ・学年・学科、クラブの枠を越えた、東高校の一員として生徒同士のつながりを実感できる活動の場を創造する。 イ ・部活動への加入を促すため、校内での表彰掲示や中庭ライブ、クリスマスライブなどの活動発表の場を創出する。 ・クラブ間のつながり、リーダーとしての意識付け、自主的な取り組みを促すため、クラブ代表者会議を開催し、ひとつの学校としての一体感を醸成する。 (3) ア ・生徒が安全で安心できる学校生活を送れるよう、生徒・教員アンケートを実施し、生活実態を定期的に把握する。不安な状況があれば、関係各所で連携し、速やかかつ組織的に対応する。 イ ・各学年において年1回芸術鑑賞を実施する。また、全学年対象の人権講演会を年1回実施する。</p>	<p>(1) ア ・学校教育自己診断(生徒)において「基本的な生活習慣やマナーが身についた」の指数を80%以上にする。[R4 生徒84%] ・年間遅刻件数を1050件未満にする[R4 2月末現在1790件] ・一年間皆勤の生徒を全校生徒の35%以上にする。[R4 36.1%] イ ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「生徒の健康保持のための指導やけが・病気等に対する対応が適切に行われている」の指数を85%以上にする。[R4 生徒94% 保護者89%] ウ ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「生徒が積極的に清掃活動・環境美化に取り組むように指導が行われている」の指数を生徒、保護者ともに75%以上にする。[R4 生徒76% 保護者80%] エ ・学校教育自己診断(保護者)において、「ホームページ等を通じて、教育活動等について積極的に外部に情報を発信している」の指数を85%以上にする。[R4 保護者88%] (2) ア ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「学校行事や部活動等を通じて、生徒が自発的に活動できるよう、生徒の自主性を重んじた指導が行われている」という指数を85%以上にする。[R4 生徒88% 保護者91%] イ ・部活動加入率を85%以上にする。[R4 79%] ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「学習と部活動の両立を大切にしている」の指数を80%以上にする。[R4 生徒80% 保護者88%] (3) ア ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「豊かな心や生き方、人権の大切さについて学ぶ機会を設け、違いを認めながら支え合う集団を育てている」の指数を80%以上にする。[R4 生徒92% 保護者86%] イ ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「明るく、充実した学校生活を送っている」の指数を90%以上にする。[R4 生徒91% 保護者92%]</p>	<p>(1) ア ・学校教育自己診断(生徒)において、「基本的な生活習慣やマナーが身についた」の指数は87%であった。(◎) ・2月末現在の遅刻数は1821件となった。(○) ・一年間皆勤の生徒は全校生徒の20%となった。(○) イ ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「生徒の健康保持のための指導やけが・病気等に対する対応が適切に行われている」の指数は生徒92%、保護者93%であった。(◎) ウ ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「生徒が積極的に清掃活動・環境美化に取り組むように指導が行われている」の指数は生徒89%、保護者79%であった。(◎) エ ・学校教育自己診断(保護者)において、「ホームページ等を通じて、教育活動等について積極的に外部に情報を発信している」の指数が89%であった。(◎) (2) ア ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「学校行事や部活動等を通じて、生徒が自発的に活動できるよう、生徒の自主性を重んじた指導が行われている」という指数は生徒90%、保護者91%であった。(◎) イ ・部活動加入率82%であった。(○) ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「学習と部活動の両立を大切にしている」の指数は、生徒82%、保護者86%であった。(◎) (3) ア ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「豊かな心や生き方、人権の大切さについて学ぶ機会を設け、違いを認めながら支え合う集団を育てている」の指数は生徒89%、保護者88%であった。(◎) イ ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「明るく、充実した学校生活を送っている」の指数は生徒92%、保護者93%であった。(◎)</p>

	<p>ウ いじめ対策委員会を中心とし、いじめの未然防止及び事案発生時は組織的かつ迅速、適切に対応する。</p> <p>(4) 生徒支援の充実 ア 生徒情報の共有化に努めるとともに、配慮を要する生徒の実態を的確に把握し、合理的配慮の観点を踏まえた支援を行う。</p> <p>イ スクールカウンセラー等の外部人材の活用により、教育相談体制を充実させる。</p>	<p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめ対策委員会を中心に、基本的な対応について教員間で共有するとともに、積極的にいじめを認知する。 事案発生時は速やかにいじめ対策委員会を開催し、情報共有のうえ解決策を検討し、適切に対応する。 <p>(4) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 「高校生支援カード」等を活用し、配慮を要する生徒を速やかに把握するとともに、生徒、保護者、関係部署で連携し、当該生徒に必要な学習面、生活面等の配慮を行う。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーによる教員研修を年1回以上実施し、生徒一人ひとりに対する理解を深め、より適切な対応に努める。 	<p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(教職員)において、「生徒の問題行動およびいじめや体罰(その疑いを含む)の問題について、組織的かつ迅速に対応している」の指数を90%以上にする。[R4 96%] <p>(4) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 配慮を要する生徒・保護者からの聞き取りによる満足度を80%以上にする。[R4 88%] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「生徒の悩みや困ったことに対して、親身な対応がなされている」の指数を80%以上にする。[R4 生徒86% 保護者85%] 	<p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(教職員)において「生徒の問題行動およびいじめや体罰(その疑いを含む)の問題について、組織的かつ迅速に対応している」の指数は100%であった。(◎) <p>(4) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 配慮を要する生徒・保護者からの聞き取りによる満足度は100%であった。(◎) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「生徒の悩みや困ったことに対して、親身な対応がなされている」の指数は生徒89%、保護者84%であった。(◎)
<p>3 進路指導・キャリア教育の充実</p>	<p>(1) 生徒一人ひとりの進路意識の向上に向けた進路講話、情報提供等の充実 ア HR、進路講話等を通じて、生徒の進路意識を向上させる。</p> <p>イ 進路決定・実現に向けた生徒の主体的な取組を促進する。</p> <p>ウ 進路や高大連携に関する情報提供を適切かつ速やかに行い、生徒の進路選択を支援する。</p> <p>(2) 保護者等の進路に関する共通理解、進路意識の向上 ア 保護者への情報提供を適切に行い、家庭との連携を密にして生徒の進路実現を支援する。</p> <p>(3) 進路実現に向けた教職員の共通理解と指導の充実 ア 大学入試等に関する最新情報を全教職員が正しく理解するとともに、大学入試改革に的確に対応できるよう指導を充実させる。</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年、年2回の進路講話および生徒の進路希望に応じたコース別説明会・学校別説明会を実施する。 本校独自の「進路の手引き」を全校生徒に配付する。また、各学年に必要な進路情報を掲載した「進路ニュース」を年2回以上発行し、全校生徒に配付する。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習支援クラウドサービスのポートフォリオ機能を活用し、キャリアパスポートを学期ごとに作成させる。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習支援クラウドサービスを活用し、国立大学等に関する情報提供を随時教員向け、生徒向けに行うとともに、大阪公立大や関西大などの高大連携による様々なイベントの紹介を一層充実させる。 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者対象の進路講演会を年2回以上、大学見学会を年1回実施する。また、保護者が相談しやすい環境をつくる。 <p>(3) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学入試等に関する最新情報について、学習支援クラウドサービスを用いて全教職員に適宜配信するとともに、進路指導主事が学年会に出席して入試動向を伝達する。 	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(生徒)において、「HR や進路講話、進路講演会等を通じて、進路に対する意識が高まった」の指数を75%以上にする。[R4 生徒80%] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(生徒)において、「生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数を80%以上にする。[R4 生徒78%] <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(生徒)において、「進路についての適切な情報が知らされている」の指数を75%以上にする。[R4 生徒78%] <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(保護者)において、「進路についての適切な情報が知らされている」の指数を70%以上にする。[R4 保護者74%] 学校教育自己診断(保護者)において、「生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数を70%以上にする。[R4 保護者74%] <p>(3) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(教職員)において、「進路についての適切な情報が知らせている」の指数を90%以上にする。[R4 96%] 	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(生徒)において、「HR や進路講話、進路講演会等を通じて、進路に対する意識が高まった」の指数は77%であった。(○) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(生徒)において、「生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数は78%であった。(○) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(生徒)において、「進路についての適切な情報が知らされている」の指数は78%であった。(○) <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(保護者)において、「進路についての適切な情報が知らされている」の指数は73%であった。(○) 学校教育自己診断(保護者)において、「生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数は73%であった。(○) <p>(3) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(教職員)において、「進路についての適切な情報が知らされている」の指数は95%であった。(◎)

	<p>イ 進学指導力向上に向け、模試分析会、志望校検討会を充実させる。</p> <p>(4) 生徒の希望する進路の実現</p> <p>ア 生徒の希望や適性等に応じた適切なガイダンスおよび個別面談を行い、進路結果についての生徒の満足度を高める。</p>	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模試分析会、志望校検討会では、生徒一人ひとりの能力、適性を見極めるため、担任、関係教員の意見を全員で共有する。 <p>(4)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に面談に必要な資料提供を行い、生徒の希望や適性等に応じた適切なガイダンスおよび個別面談を行う。また進路閲覧室の活用を促すとともに、進路に関してきめ細かいアドバイスを提供する。 	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(教職員)において、「生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導を行っている」の指数を90%以上にする。[R4 96%] <p>(4)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度卒業生のうち、進路結果についての生徒の満足度を85%以上にする。[R4 89%] ・令和5年度卒業生のうち、現役で国公立大学合格者を40名以上にする。[R4 35名] 	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(教職員)において、「生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導を行っている」の指数は95%であった。(◎) <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度卒業生のうち、進路結果について満足とした生徒は87%であった。(○) ・令和5年度卒業生のうち、現役での国公立大学合格者は67名であった。(◎)
<p>4 チーム東高校として課題解決にあたる教員集団の確立</p>	<p>(1) 学校の教育課題に対して全員で取り組む環境づくり</p> <p>ア 学習支援クラウドサービスの活用により、教員間の情報共有、業務の連携、効率化を図る。</p> <p>イ 学校の課題に適した教員チームを中心として、主体的な教員集団を確立するとともに、意見・提案しやすい環境づくりに努める。</p> <p>ウ 有事において、教職員へ円滑な情報伝達を行うとともに、早期解決に向け、組織的に対応する。</p> <p>(2) 働き方改革としての業務の平準化、効率化</p> <p>ア 時間外勤務時間の削減を図るため、教職員への啓発と意識改革を進める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の連絡から緊急連絡に至るまで、必要に応じて学習支援クラウドサービスを活用することで、業務の効率化を推進する。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度目標の達成に向けた校務分掌を組織するとともに、学校課題を解決するための教員チームを設置し、教職員の主体的な行動を促進する。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害等が発生した場合、管理職から教職員への情報伝達および対策や指示が円滑に行われる組織体制を整える。 <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員会議等において、時間外勤務の現状を共有するとともに、特に時間外勤務の多い教員の実態を丁寧に把握し、個別の業務負担を減少させる。 	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(教職員)において、「生徒情報共有、業務連携、効率化に取り組んでいる」の指数を70%以上にする。[R4 70%] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(教職員)において、「教育活動における課題や悩みについて、教職員間で話し合うことができ、意見や提案をしやすい環境である」の指数を75%以上にする。[R4 78%] <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(教職員)において、「地震や火災などの災害時に、迅速で適切な対応ができる態勢が整えられている」の指数を85%以上にする。[R4 88%] <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の平均時間外勤務時間を年次減少させ、令和4年度比2%以上減とする。[R412月末現在 38時間25分] 	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(教職員)において、「生徒情報共有、業務連携、効率化に取り組んでいる」の指数は83%であった。(◎) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(教職員)において、「教育活動における課題や悩みについて、教職員間で話し合うことができ、意見や提案をしやすい環境である」の指数は83%であった。(◎) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(教職員)において、「地震や火災などの災害時に、迅速で適切な対応ができる態勢が整えられている」の指数は83%であった。(○) <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の平均時間外勤務時間は、昨年同時期(12月末現在)で35時間42分(昨年度比7%減)であった。(◎)